

柏木教会月報

7月号

東京都新宿区北新宿 3-1-18

☎03-3368-2156

牧師 大浦 勝

恐れてはならない

マタイによる福音書一〇章二六―三三節

牧師 大浦 勝

「体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい」(二八節)。

キリストはお選びになった一二人の弟子たちを派遣されるに当たり、「人々を恐れてはならない」と命じておられる(二六節)。使徒言行録は、使徒たちが厳しい迫害と人々の厳しい反対の中でキリストを宣べ伝えたことを記している。彼らは捕らえられ、法廷に引き出され、鞭打たれ、騒動に巻き込まれた。「人々を恐れてはならない」は、彼らに必要な励ましの言葉であった。

わたしたちもこの励ましの言葉が必要としている。キリストはわたしたちにも、恐れなくてキリスト者として歩み続け、遣わされた者としてつとめを果たすように求めになっておられるからである。まるで悪いことをしている者であるかのように恐れながら歩むことは、キリスト者にふさわしくないし、つとめを担う者にふさわしくない。わたしたちは恐れなくてキリスト者として歩み、遣わされた者としてつとめを果たすべきである。

一、わたしたちが聞き、信じ、また、語るように命じられている言葉は、真理そのものであるキリストが語られた言葉である。それは今は覆われ、隠されているかも

しれないが、必ず現され、知られるようになる。神はそのような時を備えておられ、定められた時が来れば必ずすべての人にそれを明らかにされる(二六節)。わたしたちはすべての人に明らかにになり、現されるに先立って、それを知らされ、それを宣べ伝えるつとめを与えられている。恐れなくて、これを「屋根の上で言い広める」ことこそがふさわしい(二七節)。

二、わたしたちは人々の間を生きているが、その中で神をこそ恐れて生きるべきである。わたしたちはやがてキリストの前に立つとき、人々の前で自分とキリストとの関係をどう言い表したかを問われ、それに基づいて、あるいは受け入れられ、あるいは退けられる(三二―三三節)。確かに人は人に対して極めて残酷になる。わたしたちはそれを恐れる。しかし、わたしたちは死によって人の力から解放される。わたしたちが恐れなければならぬのはむしろ、「魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方」である(二八節)。わたしたちは今、神の目前に立つための備えの時を過ごしているのである。

三、神はわたしたちのすべてを知っておられ、深い愛われりと愛をもってわたしたちを守り、顧みてくださる(二九―三一節)。わたしたちは神の確かなみ手の中に置かれているのであるから、どんな時にも、なにものをも恐れなくて、大胆にキリスト者として歩み続け、与えられたつとめを担い続けていきたい。どんな被造物も、「わたしたちの主イエス・キリストによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです」(ローマ八・三九)。